



上海レポート

令和3年2月号

Vol. 6



公益財団法人 大阪産業局上海代表処 (大阪府上海事務所)

中国上海市延安西路 220 | 上海国際貿易中心 408室 200336 Email osaka@ibo-sh.com.cn
TEL 86-21-6270-1901 FAX 86-21-6270-1351 http://osaka-sh.com.cn

20210201 号	「評判のカフェに行ってきました」	所長 長野眞由子
20210208 号	「旧正月に向けての一大イベント“年貨節”」	副所長 前田千晶
20210222 号	「この3年間での上海の変化」	所長 長野眞由子

20210201 号 「評判のカフェに行ってきました」 所長 長野眞由子

中国で美味しいコーヒー？ってあまりピンとこないかもしれませんが、実は上海ではカフェが大人気です。当地のグルメサイトで、付近の「珈琲店」を検索すると、なんと1万件以上もヒット。スターバックスのような大型チェーン店はもちろん、個性的な小さなお店も次々にオープンし、競争が激化しつつあります。中国のコーヒー市場は年々拡大しており、アジアではすでに日本・韓国に次ぐ輸入大国となっています。

昨年末にオープンしたあるカフェが大変評判で行列になっていると聞き、少しほとぼりが冷めたと思われるころに覗きに行ってきました。お店についてみると、なんと壁に穴があいているだけ。QRコードが掲示されており、スマートフォンからスキャンして注文して待っていると、穴から可愛いクマの手がコーヒーを差し出してくれます！実はこのカフェ、聴覚障がいを持つかがコーヒードリップの技術を習得され、オープンしたお店だそうです。この仕組みであれば言葉を交わすことなく商品の受け渡しが完了できます。クマの手からコーヒーを受け取る場所を写真におさめ、SNSにアップするのが人気で、オープンからひと月以上経ってもお客さんが途切れません。コーヒーは美味しいうえ、お値段も20元(約300円)とリーズナブル。持ち帰りだけのためお店のスペースも小さくすんでいることも、お値段に関係していそうです。

コーヒーを売るというどこにでもあるお店を、いろいろな工夫でここまで面白く楽しく演出していることにすっかり感心し、コーヒーを楽しみながらお店をあとにしました。



20210208 号 「旧正月に向けての一大イベント“年貨節”」 副所長 前田千晶

中国で 2 月 12 日は春節(旧正月)で、今年は、大晦日にあたる 2 月 11 日から 17 日までが春節休暇となります。

1 月の中旬から 1 月末にかけて、各社インターネットサイトでは“年貨節”と題して、販売促進活動が行われていました。以前は正月のための特別な食糧品や新しい服を実店舗で買うことが多かったようですが、今年は新型コロナウイルスの影響で人との接触を避ける目的もあり、インターネット通販が活況だったようです。インターネット通販サイト合計での売上は、開始から 10 日間で売上高が 3,000 億元を超えたそうです。食料品、衣料品のみならず色々な商品が割引されていたので、私もついつい沢山買ってしまい、年貨節を満喫しました。

新業態(ライブコマース等)の活用、コロナの影響もあり、中国ではますます EC 取引が脚光を浴びています。越境 EC についても日中間の往来が制限されている背景もあり、前年比約 30%増加しているようです。日中間の人の往来がなかなかできなくても、ビジネスチャンスはたくさんあります。



20210222 号 「この 3 年間での変化」 所長 長野眞由子

私ごとではありますが、3 月に離任し、日本に本帰国することとなりました。2018 年 2 月末に着任しましたので、上海での駐在生活はまる 3 年だったこととなります(その間、新型コロナの流行に伴い 7 か月ほど一時帰国をしていましたが)。

たったの 3 年間でしたが、上海の変化の速さを、身をもって感じることができました。例えば、日本でもよく話題になったシェア自転車。着任した 2018 年には、急成長を遂げた 2 社による「Mobike」「Ofo」がほとんどを占めていたのですが、どんどん競合が参入し、今では、「Mobike」を買収した「美团單車」、アリババグループの「ハローバイク」が取って代わりました。この淘汰の速さには本当に驚くばかりです。

また地下鉄は在任中に 15 号線(2021 年 1 月)、18 号線(2020 年 12 月)の 2 路線が新しく開業しました。今は地下鉄の駅のすべての改札で、スマートフォンアプリでの乗車ができますが、赴任当時はアプリが使用できる改札が駅に数か所しかなく、多くの人々が切符やプリペイドカードを利用していました。キャッシュレスも進み、街で買い物をするときの現金使用者が以前よりずいぶん減った印象です。

このように変化のスピードが速く、しかも人々がさほど戸惑わずにそれに適応しているように見えるこの上海が、今後どのように変わっていくのか、日本に戻っても目が離せません。

